

生き立ち

子どものとき、私はいつも日本に行くことが夢でした。その理由は、お姉さんが日本に住んでいたからです。お姉さんが写真を送ってくれるたびに、私はすぐに床にすわって、その写真を一まいづつゆっくり見ました。行ったことがない場所や、カラフルなライト、広い道、そして映画のような景色がありました。写真を見ると、お姉さんのうれしい気持ちが伝わってきて、私はもっと日本に行きたいと思いました。

私はいつもその写真を持ち歩いていました。学校で、毎日のように友だちに見せて、「これ、お姉さんです！日本にいます！」と自慢しました。母は「写真をなくすよ」と心配して、よく私をしかりました。でも、私にとってその写真は宝物でした。

友だちも日本に行きたいという気持ちをいっしょに話してくれました。休み時間や放課後に、「いつか日本でさくらの下を歩きたいね」「テレビで見た日本の食べ物を食べたいね」と話しました。夢はとおかつたけれど、友だちと話すだけでうれしかったです。

私はスタジオジブリの映画も大好きでした。ジブリの映画を見ると、ちがう世界に入った気持ちになりました。それで、かんたんな日本語の言葉や数字を勉強し始めました。発音がまちがっていても、私はうれしかったです。日本に少しちかづいた気がしたからです。

子どものころは、日本だけではなく、兄や友だちと楽しい思い出もたくさんありました。よく畠に行って、フルーツをとりました。かごがいっぱいになると、川へ行って泳ぎました。水でゲームをして、日がくれるまで遊びました。学校がない日は、畠で野菜の手つだいをしました。あつくて大変でしたが、みんなといっしょなので楽しかったです。

子どものころの生活はとてもシンプルでした。スマホもなく、特べつな物もありませんでした。でも、笑顔とゆめがいっぱいでした。

今でも、あのころの私の気持ちを大事にしています。

お姉さんの写真を大切に持っていた小さな私。「いつか日本で働きたい」と信じていた私。

そのゆめは、今も私の中で生きています。